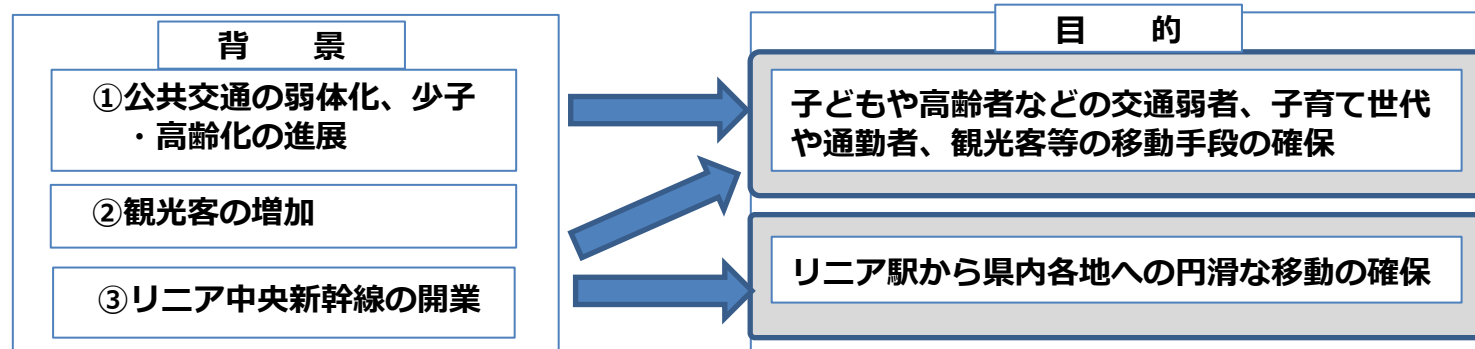


## ① 策定の背景と目的



## ② 基本的な考え方

- ①生涯にわたり安心して暮らせる社会を実現するバス交通ネットワークを構築する。**
  - ・子育て 子育て支援施設の利用など子育て世代の多様な社会参加や外出が可能となる、安心して子どもを産み、育てることのできる社会の実現を目指す。
  - ・教育 個性と魅力を備えた活力ある高校への通学が可能となり、また、ライフステージに応じた主体的な学習機会への参加ができ、生涯にわたり生き生きと暮らすことのできる社会の実現を目指す。
  - ・しごと 通勤やビジネスでの円滑な移動ができる社会の実現を目指す。
  - ・医療 高齢者の外出を促し、多様な社会参加を通じた健康の維持・増進を図るとともに、病気を予防し、生涯にわたり健康で生き生きと暮らすことのできる社会の実現を目指す。地域の診療所などの医療機関や基幹病院への通院が、県内全域で可能となる地域間でサービス格差のない社会の実現を目指す。
  - ・買い物 高齢者などの交通弱者が、買い物のため円滑に移動することができ、安心して暮らすことのできる社会の実現を目指す。
- ②観光客の県内各地への円滑な移動を確保し、県内周遊観光を促進するため、バス交通の充実を図る。**
- ③リニア中央新幹線の開業を見据え、リニア駅から県内各地への円滑な移動を確保する、利便性の高いバス交通ネットワークを構築する。**

## ③ 基本理念

『子どもや高齢者などの交通弱者や観光客等の移動手段を確保するとともに、リニア中央新幹線の開業を見据え、リニア駅から県内各地への円滑な移動を確保するため、利便性の高いバス交通ネットワークを構築する』

## ④ 実現する将来像

- 県民のライフステージに応じた生活を支える利便性の高いバス交通ネットワークの構築**

子育て世代の社会参加や外出、子どもの通学、通勤、高齢者の学習機会や社会参加、通院など県民の日常生活における移動を円滑にする利便性の高いバス交通ネットワークを構築し、生涯にわたり生き生きと安心して暮らせる社会を実現する。
- 観光客の移動手段の確保**

県外からの観光客等の県内各地へのスムーズな移動手段を確保するため、鉄道駅等と観光地や観光地間を結ぶバス交通の充実を図り、県内周遊観光を促進する。
- リニア駅から県内各地への円滑な移動の確保**

県内に張り巡らされたバス交通ネットワークやリニア駅と甲府駅を結ぶ新たなバス交通システムにより、県内各地へのスムーズな移動が可能となる。

## ⑤ 基本目標

- (1)利便性の高い広域的なバス路線の整備**

複数市町村にまたがる県内各地の拠点間を結ぶバス路線を再編・整備し、広域的な移動について利便性の高い効率的な移動手段を確保する。
- (2)日常生活や観光客の移動手段となる地域内のバス路線の整備**

地域内をきめ細かく巡るバス路線を再編・整備し、地域住民の日常的な通院や買い物などの移動ニーズや地域内の観光地を巡る観光客のニーズに応える移動手段を確保する。
- (3)リニア駅と県内各地を結ぶバス路線の整備**

リニア中央新幹線の開業を見据え、リニア駅から甲府駅や県内各地に円滑に短時間で移動できるよう、バス路線を新設・再編する。
- (4)バス交通の利用促進**

利便性の高いバス交通ネットワークを維持し、充実させるため、利用者の増加につながる効果的な利用促進策を検討し、実施する。

## ⑥ 目指すべき姿

鉄道駅や基幹病院などの県内の主要拠点間を短時間で結ぶ広域的な路線と、診療所や子育て支援施設などの施設をきめ細かく巡る地域内の路線について、それらが効果的に接続できるよう路線を再編・整備し、県民のライフステージに応じた生活を支え、観光客の移動を円滑にする利便性の高いバス交通ネットワークの構築を目指す。

- ※ **拠点の設定** 移動の目的地となる拠点、交通結節点としての拠点
- ※ **広域的な路線**
  - 〈県民の日常生活や観光客の移動手段を確保するための検討〉
    - ・バス路線の起終点・経路の見直し
    - ・主要な拠点との接続や経路・発着地の見直し
    - ・運行便数
  - 〈リニア中央新幹線の開業を見据えた検討〉
    - ・リニア駅と県内各地を結ぶ速達性を確保したバス路線の新設・再編
    - ・速達性、定時性を確保したリニア駅と甲府駅を結ぶ新たなバス交通システムの整備
- ※ **地域内の路線**
  - ・鉄道駅などの拠点への接続、地域の医療機関、商業施設の経路などバス路線の見直し
  - ・地域内の子育て支援施設、商業施設、医療機関や観光地等を巡るコミュニティバスの運行
  - ・観光、通院、買い物等の利便性を向上させるための鉄道駅や病院、商業施設等と接続する路線新設
- ※ **利用促進**
  - ・実効性があり、持続可能なバス交通ネットワークを構築するための効果的な利用促進策
  - ・ノンステップバス、リフトバスの導入によるバリアフリー化の促進
  - ・多言語対応の表示など外国人観光客等の利便性向上
- ※ **関係者間の連携** 子育て、教育、医療、観光などの関係者との連携により、利便性の高いバス交通ネットワークを構築
- ※ **役割分担** **[国]** 地域公共交通の維持確保に係る基本政策の策定・財政支援、バス事業許認可等 **[県]** 広域的な路線の維持確保、市町村やバス事業者への情報提供・支援や関係者間の調整等 **[市町村]** 地域内の路線の維持確保、バス事業の運営、地域内バス交通の企画・調整等 **[事業者]** バス路線の運行、国・県・市町村と連携したバス運行サービスの提供

## ⑦ 今後の検討の進め方

交通政策会議において、新たなバス交通ネットワークの検討を進め、平成28年中にバス交通ネットワーク(案)を作成する。